

インターロッキングブロック舗装 Technical Report － 付録 編 － (その5)

Vol.94

1. 植生用(緑化)ブロック舗装

植生用ブロックは、駐車場などでの緑化率向上や景観性の向上、都市空間におけるヒートアイランド抑制効果への期待などの面からその使用は今後も増加すると考えられます。しかしながら、植生用ブロックには様々な形状寸法や植生の形態があり、設計および施工の面でひと括りに扱うことは困難です。

このため、植生用ブロック舗装の概要を説明し、実際の植生用ブロックの採用に当たっては、各メーカーの技術資料を参照してください。

(1)植生用ブロック舗装の特徴

植生用ブロック舗装の特徴を以下に示します。駐車場での緑化率向上を目的に植生用ブロック舗装が適用された事例を写真1示します。

- ① うるおいや癒しのある空間が得られる。
- ② 緑化率を向上できる。
- ③ 植生・地中生態を改善できる。
- ④ 地下水を涵養できる。
- ⑤ 他の舗装に比べて路面温度を低減でき、ヒートアイランド現象を抑制できる。



写真1 駐車場での緑化率向上を目的にした施工事例

(2) 植生用ブロックのタイプ

植生用ブロック舗装の植生方法には、大別して以下の3つのタイプがあります。

① ブロック中空部植生タイプ

ブロックに中空部を設け、この中空部に土壌を充填して植生するタイプ(図1)

② 目地植生タイプ

ブロックの側面に大きな突起を設け、目地間隔を大きくし、この目地部に土壌を充填して植生するタイプ(図2)

③ ポーラスコンクリート植生タイプ

ポーラスコンクリート製のブロックの空隙に土壌を充填して植生するタイプ(図3)

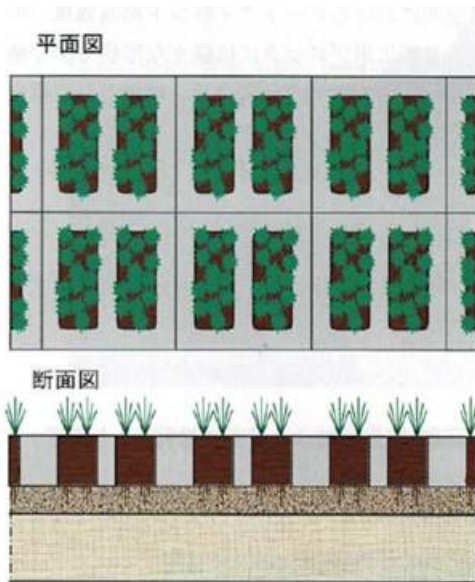


図1 ブロック中空部植生タイプ

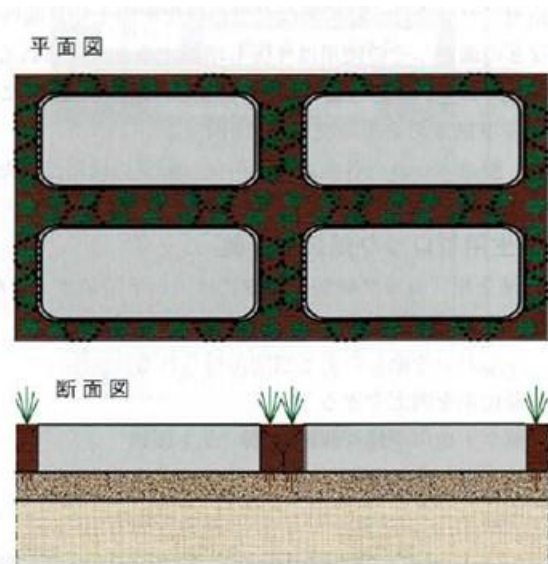


図2 目地植生タイプ

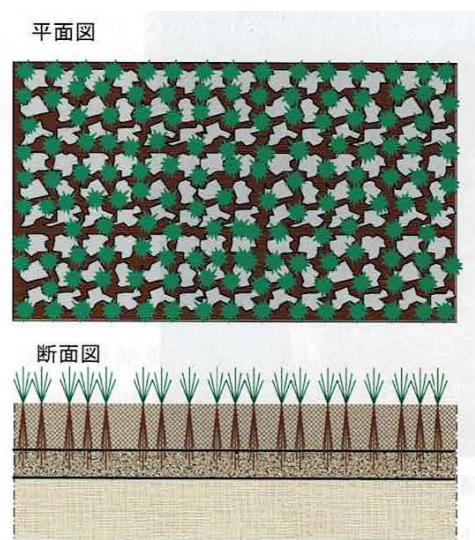


図3 ポーラスコンクリート植生タイプ

(3) 植生用ブロック舗装の舗装構造例

植生用ブロック舗装の舗装構造例を図4から図6に示します。

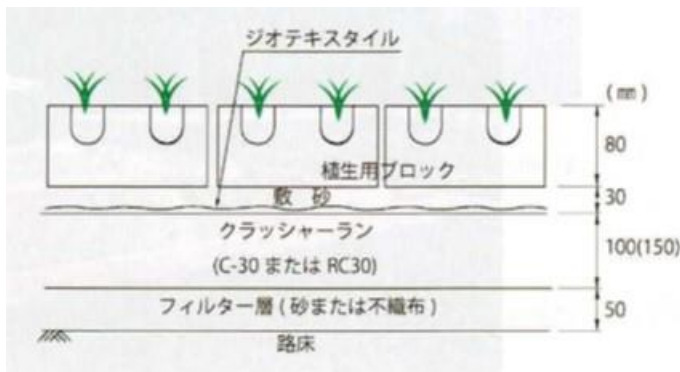


図4 IL1(歩行者系道路)の構造例

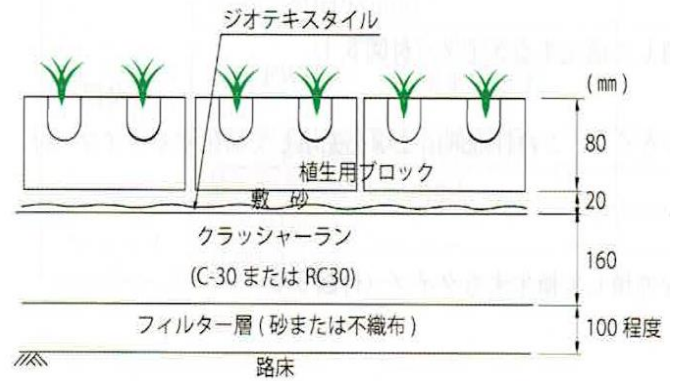


図5 IL2(乗用車乗入れ部)の構造例

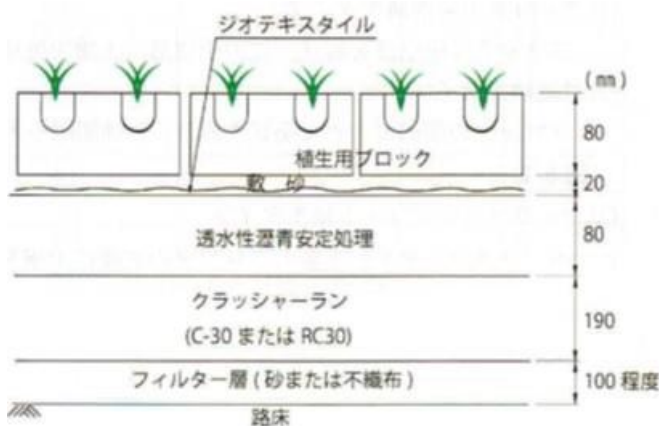


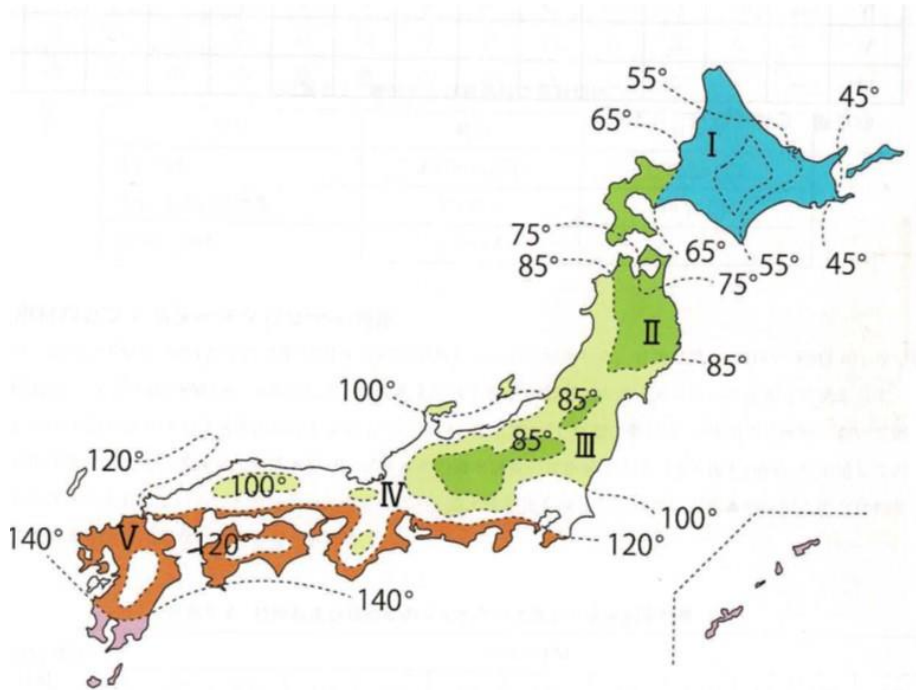
図6 IL3(交通量の少ない道路)の構造例

(5) 施工・管理上の注意点

植生用ブロック舗装は、施工および管理上、以下の事項に注意する必要があります。

- ① 耐踏性に優れ、施工場所の気候条件にあった芝の種類を選定します。特に西洋芝の播種による施工の場合、芝種によって耐踏性、耐暑性、耐寒性、耐陰性が異なるため、その選定には注意が必要であり、種苗メーカーの技術資料を参照してください。参考に温量指数による地域区分を図7に、地域区分に適応する主要芝草草種を表1に示します。
- ② 客上には芝の生育に適した土壌を選定します。
- ③ 芝の植え付け方法には、播種、苗植え、張り芝があるが、冬場や夏場をさけ、芝の生育に適した時期に行います。
- ④ 芝の生長点にタイヤが強く当たらないよう、ブロック表面から10mm程度低く植え込みます。

- ⑤ 植え付け後は十分な灌水を行います。
- ⑥ 芝が十分に生育した後に車の乗入れを行います。
- ⑦ 必要に応じて刈り込み、施肥、雑草除草、病虫害駆除を行います。



※) 温量指数(°C) : 月平均気温 5°Cを超えた月において、5°Cを超えた温度を積算した数字

図 7 温量指数による地域区分(※)

表1 地域区分に適応する主要芝草種

芝種 地域区分	寒地型					暖地型								
	ファイフエスク	ケンタッキーブルーグラス	ペントグラス	ライグラス類	トールフェスク	野芝	高麗芝(張り芝)	ひめ高麗芝(張り芝)	バミューダグラス	カーペットグラス	センチピードグラス	ウィーピングラブグラス	バヒアグラス	セントオーガスチングラス
I	◎	◎	◎	○	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-
II	◎	◎	◎	◎	◎	○	-	-	-	-	-	-	-	-
III	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	△	-	△	△	-	-
IV	△	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	○	△
V	-	△	△	△	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○
VI	-	-	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

◎最適 ○適 △可 -不可

以上